

DTM 作曲講座「スマホやタブレットを使って、歌を作ってみよう！」
(第6回)

開催日：2025年1月11日
@アクトシティ浜松研修交流センター

DTM 作曲講座「スマホやタブレットを使って、自分の歌を作ってみよう！」最終回となる第6回が開催されました。ワークショップの様子をレポートでお届けします。

このワークショップは、講師のジョン先生が主導し、参加者が「自分の歌」を制作し、表現を通じて人に気持ちを伝える方法を学ぶことを目的に行われています。第6回は、参加者による成果発表会が行われました。今回は、2024年10月5日に行われた「～DTM 体験版～楽譜が読めなくてもOK！デスクトップミュージックに触れてみよう！」の講師であるりり先生にもお越しいただき、参加者がそれぞれ制作した楽曲（ワンコーラス）とショート動画について、ジョン先生とともにフィードバックを行いました。

■発表のポイント

- ・曲のタイトル
- ・ターゲット層（どんな人に聞いてもらいたいのか）
- ・曲を通して感じてほしい感情や雰囲気、曲のゴール



■いよいよ発表！

参加者全員が順番に発表していきました。自らの内面世界や大切な人々への想い、日々の生活で感じる感情などを音楽という形に昇華させ、個性豊かな作品を発表しました。

○楽曲の多様性と表現力

ワークショップで発表された楽曲は、そのジャンル、テーマ、表現方法において非常に多様性に富んでいました。ポップス、バラード、ロック、ボカロ系など、様々なジャンルの楽曲が披露され、参加者それぞれの音楽的な嗜好や表現したい世界観の違いが際立っていました。

テーマも多岐にわたり、友情、愛情、応援、自己肯定、葛藤、社会へのメッセージなど、参加者それぞれの個人的な経験や想いが色濃く反映されていました。

夕暮れの情景を描いた楽曲や、将来への希望を歌った楽曲、内面の葛藤を表現した楽曲など、テーマの選択からも参加者たちの個性や感性が伺えました。特に印象的だったのは、参加者たちが音楽を通して感情を表現する力の強さです。メロディ、歌詞、アレンジ、音色など、様々な要素を駆使して、聴き手に感情を伝えようとする意欲が強く感じられました。力強いメッセージをストレートに伝える楽曲もあれば、繊細なメロディで静かに感情を表現する楽曲もあり、表現方法の多様性もワークショップの大きな魅力の一つでした。



○講師陣からのフィードバック

講師陣からは、個々の楽曲に対して丁寧なフィードバックが提供されましたが、その中でいくつかの共通点が見られました。

◇構成とアレンジの重要性

多くの楽曲に対して、構成やアレンジに関するアドバイスがなされました。イントロ、Aメロ、Bメロ、サビといった楽曲の構成要素の配置や展開、楽器の音色や配置、リズムの変化など、アレンジの工夫によって楽曲の表現力や聴きやすさを向上させることの重要性が強調されました。特に、楽曲の展開におけるメリハリや、聴き手の注意を引きつけるための工夫（例えば、ドラムのフィルイン、リズムチェンジ、音色の変化など）が重要であるという指摘が多く見ら

れました。

◇歌詞とメロディの関係性

歌詞とメロディの関係性についても、多くの楽曲に対して言及がありました。歌詞や伝えたいメッセージがメロディによって効果的に表現されているか、歌詞とメロディが一体となって聴き手に感情を伝えられているか、といった点が重要なポイントとして挙げられました。また、歌詞の表現方法についても、直接的な表現だけでなく、比喩や情景描写などを効果的に用いることで、より深い感情表現が可能になるというアドバイスもありました。

◇音の配置とバランス

音の配置とバランスについても、講師陣から共通的なフィードバックがありました。各楽器の音量バランス、音の定位（左右の配置）、周波数バランスなど、音のバランスを調整することで、楽曲全体の聴きやすさや迫力を向上させることができるという点が強調されました。特に、ボーカルと伴奏のバランス、各楽器の音域のバランスなどが重要であるという指摘が多く見られました。

◇ターゲットとテーマの明確化

楽曲のターゲット層やテーマを明確にすることで、楽曲の方向性や表現方法が定まり、より効果的にメッセージを伝えることができるというアドバイスもありました。誰に何を伝えたいのかを明確にすることで、歌詞やメロディ、アレンジなどがより効果的に機能するようになるという点が強調されました。

◇感情表現と共感

音楽を通して感情を表現することの重要性、そして、その感情が聴き手に共感を呼ぶことが重要であるという点も、講師陣から共通的に伝えられました。自分の内面から湧き出る感情を素直に表現すること、そして、その感情が聴き手にも伝わるように工夫することの大切さが強調されました。

○ワークショップ全体の雰囲気

ワークショップ全体を通して、参加者と講師陣の間に非常に良好なコミュニケーションが築かれていました。参加者たちは、自身の作品について熱心に説明し、講師陣からのフィードバックに真剣に耳を傾けていました。講師陣も、参加者一人ひとりの個性や表現を尊重し、丁寧かつ具体的なアドバイスを提供していました。

ワークショップは、単に技術的な指導を行う場ではなく、参加者同士が互いに刺激を受け、学び合う場としても機能していました。他の参加者の作品に触発されたり、講師陣からのフィードバックを通して新たな視点を得たりと、参加

者たちはワークショップを通して多くの学びを得ていたようです。
また、ワークショップ全体を通して、音楽に対する情熱や創造性を大切にするという共通の意識が感じられました。参加者たちは、音楽を通して自己表現をすることの喜びや、音楽が持つ力を改めて認識し、今後の音楽活動へのモチベーションを高めていたように見受けられました。

■まとめ

本ワークショップは、参加者にとって自身の音楽表現を深め、新たな学びを得るための貴重な機会となりました。講師陣からの的確なフィードバック、参加者同士の交流、そして、音楽に対する情熱の共有を通して、参加者たちは今後の音楽活動への大きな糧を得たことでしょう。このワークショップが、参加者たちの今後の音楽活動の発展に繋がることを期待しています。

